【球根生産圃場から見る将来】

近年、八重（オリエンタル）の球根生産が増え、日本でも知名度の高い品種が多くなってきました。すでに諸外国では八重の需要が拡大し、例えば、“ローズリリー シリーズ”は需要に対応すべく約２，６００万球が生産され、２５年産の販売が始まるとすぐに完売となるほど需要超過の状態が続いています。また、汎用性の高い品種として世界的に人気の高い“シャルドネ”や“ダイアンサ”は、２６年にはそれぞれ１０ヘクタール超に急拡大させる生産者がいます。球根生産圃場でも従来の品種に変わり八重の増産が進んでおり、日本においても、需要の変化や将来性、切花相場や他品目の動向などを鑑みると八重への移行が有力視されています。また、製品ライフサイクルの観点からも、スカシユリからＬＡ-ハイブリッド、オリエンタル、ＯＴ-ハイブリッド（何れも一重）へと、品種群が導入期、成長期、成熟期、衰退期へと時代の流れとても移り変わってきました。

今回の圃場調査では八重の球根生産圃場を訪問し、生産地域の気候や土質、各品種の生産性や特徴、生産者情報など、現状把握と情報収集に努めてきました。輸出会社の担当者とともに圃場を訪れ実際に球根を見ることで得られる情報も多く、今後に向けた前向きな意見交換をすることができました。

弊社では数年前より八重の切花 開花試験を行っています。営業担当者が主体的に開花試験を実施することで皆様により詳しいご説明ができるよう取り組んでおります。試験ハウスでの栽培で得られる品種特性に加え、生活者がゆりを生ける姿を想像し、開花性や日持ちの良い品種のラインナップを準備しています。皆様が八重の切花生産に安心して取り組んで頂ける環境づくりを急ぐとともに、ゆりの付加価値の向上や需要創出、利用拡大に向けた取組を皆様とともに歩んでいきたいと思います。

写真：新品種 ＯＴ（八重）

以上、宜しくお願い致します。